

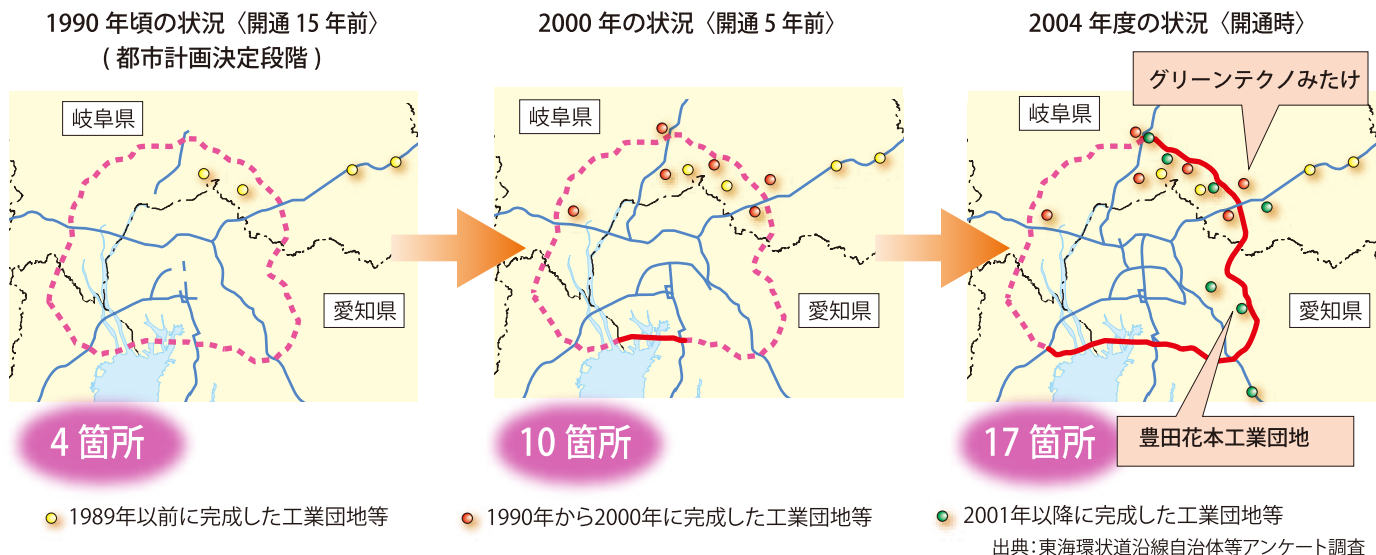
5 物流を支える高速道路ネットワーク整備

(1) 生産物流拠点の立地を促進

活発な工業団地の整備

■東海環状自動車道沿線では、開通の5年ほど前から開通を見込んで工業団地が続々と整備され、1990年の4箇所が2005年の開通時には約4倍の17箇所になりました。

●東海環状道開通前後における工業団地の変化

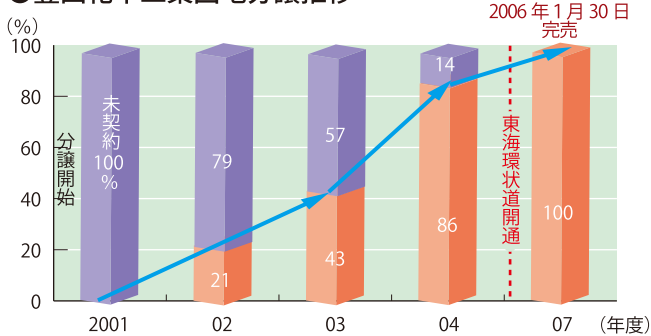


順調な企業進出

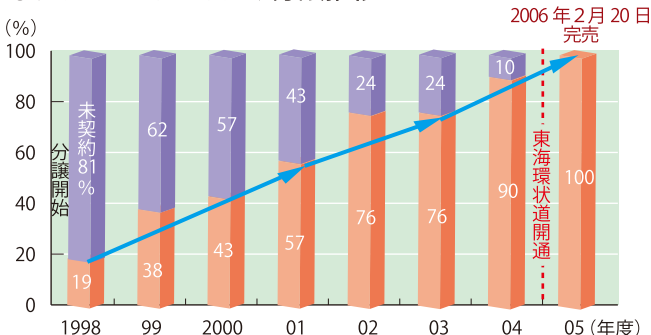
■これら工業団地では、開通前年の2004年頃から企業進出が活発となり、2005年には完売する工業団地も見られるなど企業の進出が活発化しています。

■特に岐阜県では2004年から2005年にかけて、工場の立地件数が3.4倍に、立地面積は5倍に増加しました。

●豊田花本工業団地分譲推移

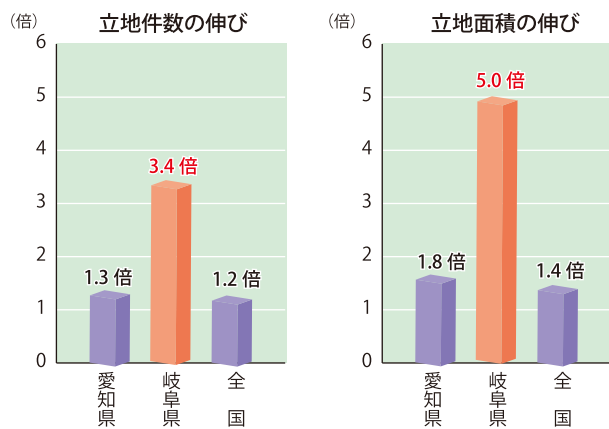


●グリーンテクノみたけ分譲推移



出典：東海環状道沿線自治体等アンケート調査

2005年の立地件数及び立地面積の伸び (2005年/2004年)



工場進出が活発な岐阜県

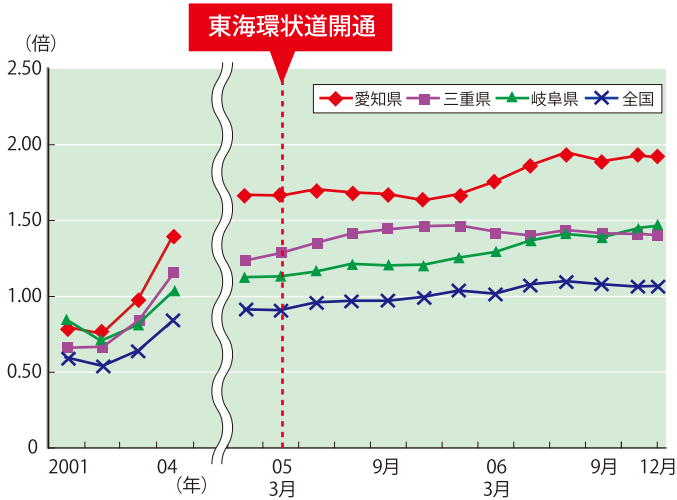
2005年の工場立地動向を2004年と比較すると、立地件数が3.4倍(12件→41件)立地面積が5倍(13ha→65ha)と大幅な増加となっています。

出典：中部経済産業局資料

雇用の拡大

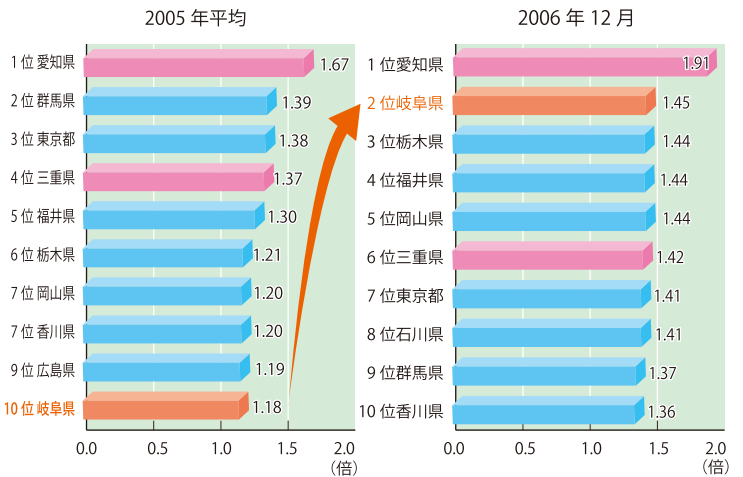
- 東海環状自動車道沿線 3 県の有効求人倍率はいずれも全国平均を上回っています。
- 特に岐阜県の伸びが大きく、2005 年の全国 10 位から 2006 年 12 月には 2 位にまで上昇しています。

●東海環状道沿線3県の有効求人倍率の推移



注) 月別値は季節調整値、年平均は原数値。

●有効求人倍率の都道府県順位の変化



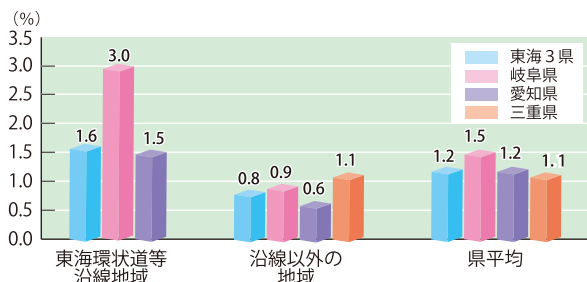
出典: 厚生労働省「職業安定業務統計」

生産額の増加

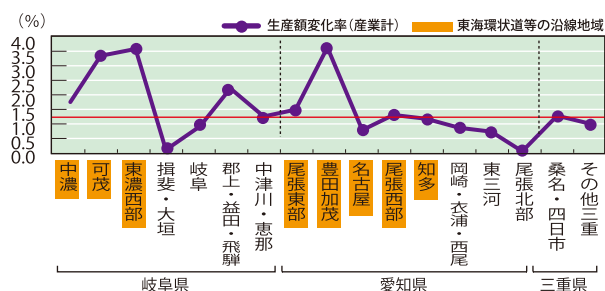
- 東海環状自動車道など*の開通で、移動所要時間が短縮されたことにより、物流の効率化や生産性向上などが進み、全国で生産額が年間約 5 千億円増加すると推計されています。
- 特に岐阜県内の東海環状自動車道沿線地域では、生産額増加率が県平均の約 2 倍の 3.0% と高く推計されており、詳細地域別に見ると、岐阜県の東濃西部地域や愛知県の豊田加茂地域で 3.5% を超える高い伸び率が推計されています。

*東海環状道、伊勢湾岸道、セントレアライン、名古屋高速一宮線、名古屋瀬戸道路の5路線

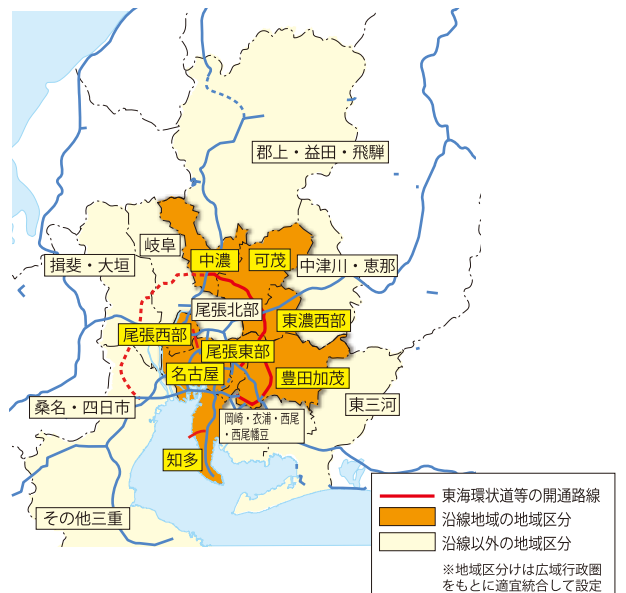
●東海3県の生産額(全産業)増加率



●東海3県詳細地域の生産額(全産業)増加率



●東海3県の沿線地域区分

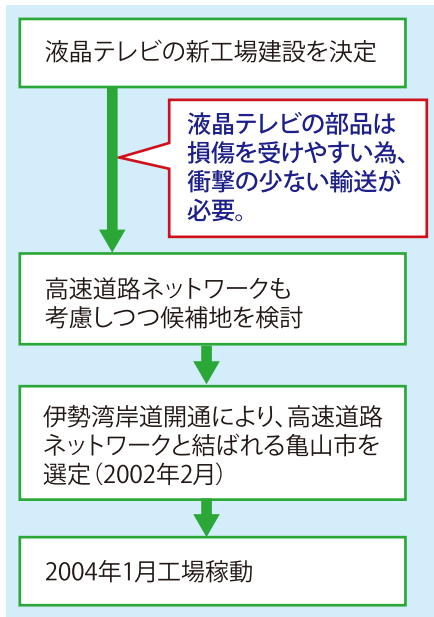


出典: 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 記者発表資料

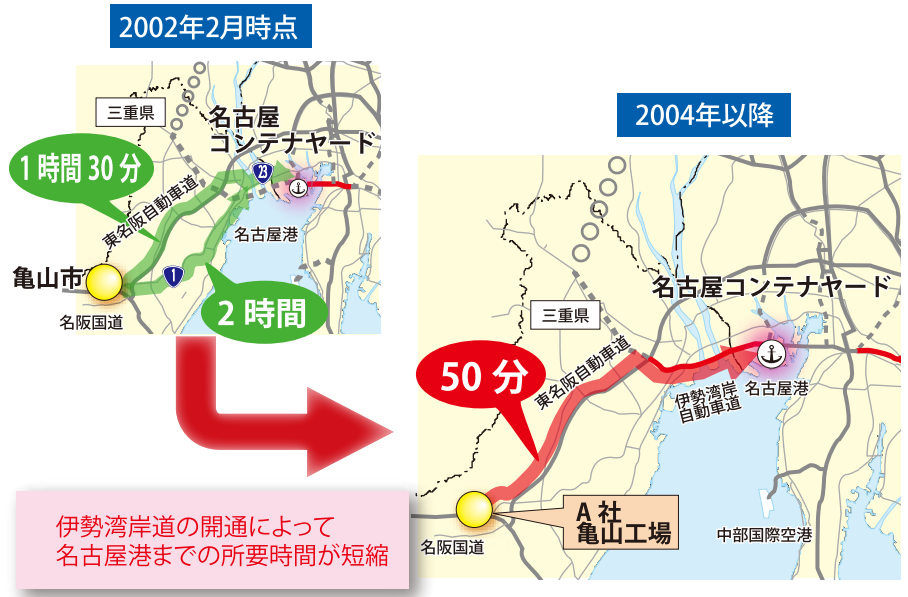
高速道路が企業進出を促進

- 電機メーカーのA社では2002年2月に亀山市に進出を決定しました。
- 2003年3月までに伊勢湾岸自動車道(四日市JCT~飛島IC)が開通し、2004年には工場が完成。
- 操業時には工場から名古屋港への所要時間が以前の1時間30分から50分に短縮しました。

●新工場建設までの流れ



●工場から名古屋港までの所要時間の変化



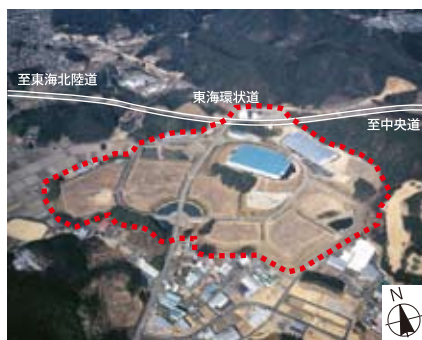
高速道路による新たなビジネスの創出

- 国内の鋼線メーカー数社は、国内外の需要の拡大に対応するため、共同で新会社(自動車関連)を設立し、東海北陸自動車道の全線開通を見越して、「関テクノハイランド」に進出しました。
- この新会社では、将来の中国との貿易を視野に入れており、製造品を東海北陸自動車道等を利用して伏木富山港まで運搬し、直接または釜山経由で中国へ輸出する計画です。

●中国への輸送ルート



東海北陸道の全線開通を見込んで、「関テクノハイランド」へ工場を新設



関テクノハイランド 2007年2月撮影

●伏木富山港からの定期コンテナ航路



出典:富山県HPを元に作成

遠隔地生産が可能に

- A 市内に立地していた自動車部品メーカーの B 社は、東海環状自動車道開通後、その沿線にある御高町の工業団地「グリーンテクノみたけ」に進出しました。
- グリーンテクノみたけから A 市内までは東海環状自動車道を利用して約 45 分であり、また定時制も確保されるため、市内の部品工場と同様に指定時刻に多頻度の納品が可能となっています。

●新工場建設までの流れ

